

- 壱岐地域は、長崎県の離島地域であり、県内屈指の肉用牛産地。しかし、飼養規模拡大や高齢化が進み、**作業の省力化や担い手の育成が課題**。
- このため普及組織では、**定休型ヘルパー組織の育成**を提案。畜産クラスター協議会と連携して、**アンケート調査**を通じた現状把握と事例調査による情報収集を行い、説明会・検討会の開催等の**設立に向けた支援を実施**。
- その結果**「壱岐地域定休型肉用牛ヘルパー組合」が設立**。**組合員のゆとりある経営の実現**や**作業整理による飼養管理のマニュアル化**に繋がっている。

### 具体的な成果

### 普及指導員の活動

#### 1. 定休型ヘルパー組織の設立

- 平成29年度11月に、壱岐地域で初の取組である『壱岐地域定休型肉用牛ヘルパー組合』が設立。



設立総会の様子

#### 2. ゆとりある肉用牛経営の実現

- ヘルパーを利用し、毎月2日間、**計画的に休日や自由な時間を確保**できている。

#### 【実際の組合員の声】

「ヘルパー利用日に**島外にいる子供と旅行に行くことができた。**」

「ヘルパー利用日に、牛の飼養管理以外の**日頃できない作業をすることができた。**」

#### 3. 飼養管理のマニュアル化

- ヘルパーへ指示するに当たって管理作業をマニュアル化しており、**作業内容の整理が成されている**。
- 定例会にて、それぞれの作業について定期的に検討する事で、**管理内容見直し**が成されている。



ヘルパー作業の様子



定例会の様子

平成27年

- 定休型ヘルパー組織設立に向けた取組に対し、**壱岐地域畜産クラスター協議会にて支援チームを編成**。
- 労力不足や休日の取得について、**アンケート調査**により、**農家の意向を把握**。

平成28年

- 長崎県平戸市と五島市へ、支援チームにて**先進事例調査を実施**。
- 得られた情報をもとに、意向農家へ**定休型ヘルパー組合の説明会を開催**。

平成29年

- 組合参加農家と支援チームにて、**設立に向けた検討会を7度開催**。
- 「壱岐地域定休型肉用牛ヘルパー組合」が設立。**発足会や設立総会の開催を支援**。

平成30年～

- 定例会を開催し、**組合運営や作業内容改善等について、情報提供や助言で支援**。

### 普及指導員だからできたこと

地域の課題を把握し、他地域の取組も知る普及指導員だからこそ、「**定休型ヘルパー組織**」という地域に先駆けた取組を提案し、**地域に適した形で実現させる事ができた**。

**日頃から連携**している先進農業者とJA、市等の関係機関を**結びつける**事で、省力化や担い手育成等の**地域の課題解決に向けた、モデル的な取組を進める事ができた**。

## 長崎県

### 「毎日きばらんちゃよかさ」～杵岐地域における定休型ヘルパー組織の育成～ 活動期間：平成 27～30 年度

#### 1 取組の背景

杵岐地域は肉用牛が主幹作目であり、平成 29 年度実績では、農業産出額の約 7 割を占めているものの、肉用牛飼養農家戸数は年々減少している。一方、1 戸当たりの飼養頭数は増加しており、規模拡大による労力不足が危惧されている。

今後の良質な子牛の安定した供給産地を維持していくためには、労力確保によるゆとりある畜産経営への取組が喫緊の課題となっており、平成 27 年度より杵岐地域畜産クラスター協議会を中心に、近年全国的に整備されつつある定休型ヘルパー組織の設立に向け取り組むこととした。

#### 2 活動内容

##### (1) 支援体制（平成 27 年度）

肉用牛飼養農家の労力支援に向け、県・市・JA・農業共済で構成する杵岐地域畜産クラスター協議会において、支援チームを編成した。



##### (2) 労力不足や休日取得についての意識調査（平成 27 年度）

肉用牛農家の意識の実態を把握するために、アンケート調査を実施した。（畜産農家 760 戸に配布し、470 戸から回収 回収率 62%）  
主な結果は、以下の通りである。

- ① 労力不足を感じており、その原因は高齢によるものである。
- ② 定期的に休日を取れておらず、休日を取りたいと思っている。
- ③ ヘルパーは丸 1 日利用したいと思っている。

アンケート結果から、杵岐地域定休型肉用牛ヘルパー組合設立に向け、活動することを決定した。

##### (3) 先進事例の調査（平成 28 年度）

長崎県の平戸市と五島市の定休型ヘルパー組合へ、事例調査を実施した。

平戸市においては、組合員とヘルパーに、組合の設立経緯、作業内容、形態等について聞き取りを行った。組合員から「ヘルパーがいるから牛飼いが続けられる」といった話があり、ヘルパー組合の必要性を再認識した。



五島市においては、設立準備や事務内容、組合の運営、ヘルパーのシフト管理について、聞き取りを行った。支援チームの役割分担等、ヘルパー組合の事務的な運営支援を確認した。





2つの事例調査により、吉岐での定休型ヘルパー組合設立への取組に対する支援チーム内での意思統一が図られた。そして、組合運営については、雇う側(組合員)のヘルパー利用に対する意識の一致と、雇われる側(ヘルパー)の条件整理が重要であるということ学んだ。

(4) 定休型ヘルパー説明会の開催  
(平成 28 年度)

アンケート調査でヘルパーが必要と答えた農家に対し、支援チームから、定休型ヘルパーについての説明会を開催した。  
(出席者 20 名)

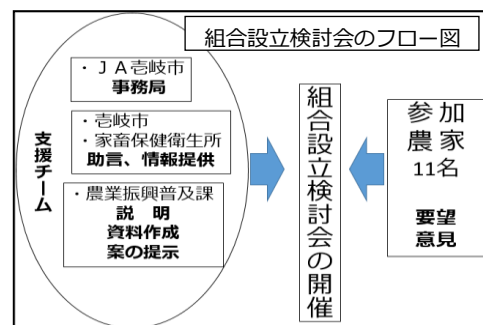


先進事例調査から定休型ヘルパーのポイントを2点整理した。1点目は「計画的に休日を取るための仕組みであること」。2点目は「作業は牛の飼養管理に関することのみであること」。

この説明により、11戸の農家が組合参加の意向を示し、組合設立に向け、取り組んでいくこととなった。

(5) 組合設立検討会の開催  
(平成 29 年度)

設立に向け、右のフロー図のとおり支援チームの役割分担を行い、参加意向農家11戸と、設立へ向けた検討会を合計7回開催した。



【主な検討内容】

- ヘルパーの作業内容の整理 (マニュアル化等)
- ヘルパーの雇用条件 (賃金、休日等)
- ヘルパーの確保 (候補者のリスト化)
- その他ヘルパー組合の運営に関すること (シフト表や規約等)



普及組織からは、右図のとおりヘルパーのシフト表(案)を作成し、ヘルパーの利用回数、利用料金の具体案を示し、農家や関係機関がイメージしやすいようにした。

9月		普及で作成したシフト案									
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
						松葉	林日	林日			10
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
松葉	山内	山内	山内	山内	山内	山内	山内	山内	山内	山内	山内
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本
	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
林日	林日	林日	林日	林日	林日	林日	林日	林日	林日	林日	林日
	25	26	27	28	29	30					
山田	久保	久保	久保	久保	久保	久保	久保	久保	久保	久保	久保

利用時間 (休憩含む)	農家負担額
1日稼働	5,000/日
1日稼働+2日稼働	6,750
2日稼働+4日稼働	7,500
4日稼働以上	9,000

(6) ヘルパー要員の確保 (平成 29 年度)

関係機関・農家からの情報を元に、ヘルパー候補者をリストアップし、交渉を行ったが、なかなか確保できなかった。農家も含め協力して、呼びかけや交渉を重ねた。

そしてようやく、牛の飼養経験のあるヘルパー要員1名を確保することができた。



### 3 具体的な成果

#### ①定休型ヘルパー組織の設立（平成 29 年度）

平成 29 年 9 月から 2 ヶ月の試行期間を経て、11 月に菟岐地域定休型肉用牛ヘルパー組合がようやく設立した。組合の具体的な内容は、下記のとおり。

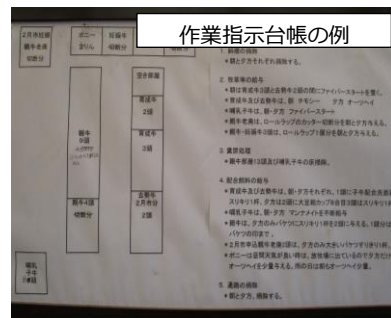
- 組合員 10 名（平均年齢 57 歳） ヘルパー 1 名
- 組合員の母牛飼養頭数総計 246 頭（8 頭～42 頭）※H30.4.1 時点
- 組合員は月に 2 日間ヘルパー利用
- 利用日は前月までに事務局（JA 菟岐市）が要望をとりまとめる
- ヘルパーは週休 2 日（夏季、年末年始休暇あり）
- 利用料金は飼養規模により設定（4 段階）
- 定例会は 2 ヶ月に 1 度開催

#### ②ゆとりある肉用牛経営の実現

組合員は毎月 2 日間、計画的に自由な時間を確保している。

#### ③飼養管理のマニュアル化

組合員は、ヘルパーへ指示するに当たって、作業内容を改めて台帳に記載し、整理することで、飼養管理のマニュアル化が図られている。



### 4 農家等からの評価・コメント

#### 【組合員から】

- ヘルパーが来てくれる日は、飼料作物の収穫や調整等、別の作業ができる。牛舎に行かなくてもよいので、非常に助かっている。
- 島外にいる子供と旅行に行くことができた。
- ヘルパーは指示通りきっちりこなしてくれる。牛にも慣れている。
- 牛の脱走や分娩事故等の緊急トラブルが怖い。まだヘルパーに作業全てを任せることができない。
- 利用日に旅行を計画していたが、急遽ヘルパーが家庭の事情で来れなくなり、宿や飛行機等をキャンセルした。

#### 【ヘルパーから】

- 当初は農家よって指示の仕方が異なりやりにくかったが、今はそれぞれホワイトボードで具体的に指示を頂けるようになったので、やりやすくなった。10 戸を担当することにも慣れてきた。
- 牛の管理作業や考え方が、それぞれの農家で異なるので勉強になる。自分の家に少し牛がいるので、組合員から教わったことを実践して、自分の管理作業に活かしたりしている。
- 給与、休日等福利厚生については満足している。これからも働きたい。
- 自分が病気になったり、家庭のことで急遽ヘルパーに行けなくなったことがあった。組合員に申し訳なく感じている。ヘルパーがもう一人いればと強く思う時がある。

## 5 普及指導員のコメント

(吉岐振興局 農業振興普及課 技師 松武紘生)

- 今後もヘルパーと組合員との信頼関係構築を支援していくことが、より円滑な運営に繋がると考えられる。
- 今後、吉岐地域において取組拡大を図るためには、この組合の運営が円滑になることが重要。本取組により組合員が得た成果を聞き取り等によく把握し、次の活動に活かす必要がある。
- 若いヘルパーが組合員それぞれから飼養管理について学び、自分の管理に活かしているとのことで、地域の担い手の育成にも繋がっている。
- 地域に先駆けた取組であり、地域の肉用牛農家への周知を行っていくことで、取組の拡大が期待される。
- 本取組では、ヘルパーの確保が難航した。取組拡大に向けては、新たなヘルパー要員の確保に向け、支援チームで検討を進める必要がある。

## 6 現状・今後の展開等

定休型肉用牛ヘルパー組合は、ゆとりある肉用牛経営を実現する取組である。今後は、今回設立した組合をモデルとし、取組を拡大させていくことで、吉岐地域における肉用牛農家の生産基盤強化や担い手確保を目指す。



ヘルパー作業の様子